



COMPACT  
disc

# 妖怪とムッチ

Ver. 1.0

ケータ「あ、フミちゃんだ！」

ケータ「フミちゃ〜ん！  
よかったら降りてきて  
一緒にサッカーしようよ〜」

フミ「ごめんなさ〜い  
今、手が離せなくて〜」

ケータ「そっか〜分かったよ」

ワ〜

ワ〜



先生「いいのか？木霊…行かなくて」

フミ「は、い…私、もう子供じゃないから  
遊ぶなら、ゴッチの方がいいです…んっ♡」

先生「●学5年生は立派な子供だぞ  
なのに、こんなにキューキュー締め付ける  
エロマ●コして、悪い子だ」

フミ「は、ああっ♡ 先生のおち●ポ太おい…  
私の子供マ●コ…カバガバになっちゃうっ♡」

はッ

んあッ♡

はッ

先生「お、お、お…マ●コがヒクヒクして  
急に締まってきた…木霊気持ちいいか」

フミ「う、うん♡ 先生のコツコツおチ●ポ  
さつきから私の気持ちいい所、全部当たってるのっ♡」

はッ

はッ

先生「木霊はマ●コは、まだ膣壁がツブツブしてて  
先生もすごく気持ちいいぞ」

フミ「う、うん、子供マ●コ…先生の大人チ●ポ  
相性バッチリ…過ぎて、すぐイっちゃうよ」

はッ

はッ

はッ

フミ「先生♥先生♥ 私イク…イクっ…  
イッちゃいますっ♥」

先生「いいぞ、先生と一緒にイこうじゃないか」

フミ「せ、先生っ♥ 中あ…中に下さ…ひ♥  
射精感しながらイキたいですっ♥」

先生「木霊は、まだ初潮もまだだから  
安心して出せるなっ！イクぞ！」

フミ「は、はい来てえ♥」  
(ホントは先週、初潮きたんだけど…内緒にしとこ♥)

あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

はっ  
はっ  
はっ  
はっ  
はっ  
はっ

んんん♡  
んんん♡

フミ「はあ…あはあ…ん♡  
エへへ…精液出てきちゃった♡  
温ったがあい…♡」

キンコンカンコン♪

先生「さあ、チャイムがなったぞ  
授業に戻りなさい」

フミ「はあ～い♡」

フミ…  
フミ…

んんん

んんん

フミ「お兄さん、カッコイイね♡  
良かったら、私と遊んでくれないですか？」

ヤンキー「マジで？遊ぶ♪  
っていうか、いくつ？チョー若そうだけどw」

フミ「1●オだよ♡  
お兄さんは●学5年生は嫌い？」

ヤンキー「チョー好きw っていうかヤペー！  
すげーテンション上がるわ」

ケータくんが最近フミちゃんの様子がおかしい  
…とのことで、尾行してみたら何なることでしょう…

噂でしか聞いたことはありませんが、  
アシはおそらく、アタルト妖怪の一種…

ホ  
オオオ！

気性が荒く獐猛、近寄ってくる妖怪や  
除霊師を無差別に攻撃する反面、  
宿主には従順で、宿主の快楽を高ぶらせる働きをするという…

ウイパー「…と、とりあえず…しばらく様子を見ましょうか…  
も、もちろん…ヒビってるワケではなく…  
これも作戦の内です。ええ、そうですとも…」



フミ「んっ、おチ●ポ…マン肉搔き分けて…  
入って…くるうっ♡」

あゝ  
あゝ  
あゝ♡

ヤンキー「うひょー！なんだこのマ●コ…毛も生えてねーのに  
内側は大人マ●コ顔負けの又ヌりくあい…」

は  
あ  
あ

ぬる、ぬる…

フミ「お兄さんの…おチ●ポお…  
すこくおっさくて硬くて好き♡」

ヤンキー「ひやはw まだまだだっけ♪  
すぐにオレの本気見せてやんよ」

フミ「あ♡お♡はっ♡お♡ すごひっ…  
突くタイミング…私の腰とバッチリ合ってて  
すっこ奥までくるよ♡」

ヤンキー「まあな！音ゲーとか超得意だし  
ピストンリズムはバッチシよ♪」

フミ「あ♡あ♡そこ気持ちい♡  
抜く時、私のGスポット引っ掻いてるよっ♡」

ヤンキー「分かってるって♡ このザラザラの肉壁んとコっしよ？  
ここ通る度に、マ●コびくびく痙攣してんぜ」

あ  
ん

あ  
ん

あ  
ん

あ  
ん

あ  
ん

フミ「お兄さん♥ ...私...イク...  
もうイッチャウイッチャウ♥」

は  
ッ  
ミ

ヤンキー「オラオラ！  
オレの射精までまだイクなよ」

は  
ッ  
ミ

は  
ッ  
ミ

は  
ッ  
ミ

は  
ッ  
ミ

は  
ッ  
ミ

は  
ッ  
ミ

フミ「ん、駄目え♥ オマ●コさっきから  
ずっとイキたがってるのっ、イカせてえ♥」

ヤンキー「しかたねーイケイクいっちまえ！  
罰として、オレの遺伝子思いっきり受精させてやっからなっ！！」



フミ「あ♡…ああ♡…  
イキのいい精子い子宮の中でピチピチ踊ってる♡」

トク…トク…

ヤンキー「へへ…受精するまで  
ずっと出し続けてやんぜ…」

ズンズンズン

フミ「うん…いいよ…  
受精…する♡」

フ…

ヤンキー「おまw ほんとに●学生か？  
ハンパねーちようウケるわ(笑)」

ケータ「ふ、フミちゃん…そんなの…き、汚いよ…」

フミ「あら…ケータくん知らないの？  
大人になったら皆コレするんだよ…はむ♡」

ケータ「あ、ああ…あつたくて…  
気持ちいい…」

フミ「でしょ…私上手いんだから♡」

ちんぽ

ちんぽ…

ちんぽ



ケータ「ふ、フミちゃん…オレ…  
なにが…こみ上げて来っ…うあっ！」

フミ「あんっ♡ ケータくんの初射精汁…  
アオ臭くて美味しっ♡」

んんん♡  
んんん♡

んんん♡  
んんん♡

ケータ「あ、ああ…」

フミ「んふ♡ 子供手●ポお♡  
これはこれでいいかも♡」

んんん…

んんん♡  
んんん♡



フミ「ねえねえ…おじさん達…  
私とセックスしませんか？」

おじさんA「なんだ？援助交際か？  
いくらだい？」

フミ「ん～そうねえ…  
一回100円にくらいでいいかな」

おじさんB「ひや、百円?!」

フミ「高いかな？ じゃあ…生セックスでいいよ」

おじさんA&B「い、いや、それをお願いするよ!!」

フミ「あ…やだ…もう濡れてきちゃってる…」

おじさんA「こ、こういう事はよくしてるのがい？」

フミ「うん♥ 毎日してるよ♥セックスしないと  
おマ●コずっとうずいちやうて堪らなくなっちゃうもん」

じわ…

おじさんA「ほ、ほお…なのにオマ●コは  
まだこんなにピンクで綺麗なのか…素晴らしい…」

おじさんB「最近の子供は進んでいますなあ…」



ドキ  
ドキ  
ドキ

フミ「んっ、んっ、気持ちっ♡  
おじさん舐めるの上手あい♡」

おじさん「A「ああ…なんて美味しいんだ…  
脱脂粉乳の様な乳臭さと、甘ったるい舌触り…  
一生舐めていられるよ…」

んっ…  
んっ…  
んっ…

フミ「うん…いっぱい舐めてえ♡  
オマ●コぶにやぶにやにぶやかすくらい♡」

ブルっ

ビク

あー  
んっ

ビク

フミ「あ…おじさん…待って…お、おしっこ…  
おしっこ出ちゃうぞっ♡」

おじさんA「いいよ…おじさんに飲ませておくれ」

ん  
ん…♡

ぬいぢー

フミ「出ちゃうっ!!  
ホント出ちゃうっ♡」

フミ「んんんっつ!!! 出たあ!!!  
おしっこ...おしっこおおつ♡♡」

おじさんA「ああ...甘露甘露...  
そこいらの清涼飲料水なんて目じゃない」

フミ「んんっ♡ やあっおしっこ、おしっこ飲まれてるう♡  
やだあすごく嬉しいよお♡ オマ●コキユンキユンしちゃう♡」

フミ「おじさん…おチ●ポ…  
…ギンギン…すこおい♡」

ビュン

おじさんB「ああ…君たちの前戯で  
大変興奮してしまつてね…」

ぬりゅ

ちゅ

フミ「うん、私もオマ●コにおチ●ポ  
根本まで突っ込んで欲しくてたまんないの♡」

とまん  
とまん

おじさんB「そうか…じゃあ遠慮無くいかせてもらうよ」

フミ「んはあああはあああ♡

おチ●ポ…おチ●ポ…スプスプ…て挿入って…くるう♡」

おじさんB「流石に子供は体温が高いな…  
膣の中もアツアツでヤゲドシそうだ…」

ハッ！

うんっ！

フミ「あ、おお♡ まだ、まだ来るう♡  
オマ●コの深さ変わっちゃうよお♡」

おじさんB「まだだよ…子供マ●コでも  
…根本まで全部挿入するんだ」

はっ！

あああ  
あああ  
あああ

フミ「あ、だめ♡だめ♡だめ♡だめ♡だめ♡  
その突き方…子宮りする時のおお♡」

おじさんB「そうだ…おじさんキミを孕ませたいんだっ」

ん  
ん

ん  
ん  
ん

フミ「孕める…孕めるよ…私もう生理きてるの♡」

おじさんB「じゃあ、おじさんのザーメン  
キミの子宮に全部出してあげるよ」

フミ「うん…出して♡ 中年精液…●学5年生マ●コに  
全部出しきって下さい♡」



フミ「んおおおほお♡ イグ...イクイクイクイクイクイクイクイク♡  
おチ●ポ汁ダサれながら、何度もイクううう♡」

はあぁん♡  
すげー♡  
のぉ♡

おん♡  
おん♡  
おん♡

おじさんB「くう...なんてオマ●コだ...  
バキュームの様に精液を吸い付いてくる...  
とても幼女マ●コとは思えんな...」

フミ「あ…ああ… だめ…こぼれちゃう♡  
精液…もったいな無い…♡」



おしさん  
おしさん

おしさん

おしさん

おじさんB「おじさん達のセフレになってくれたら、  
これからいつでも出してあげるよ」

フミ「な…なるう♡ おじさんのセフレ…なるう♡」

貴方の周りで、急に大人びてしまった女の子はいませんか？

それはもしかしたら…妖怪の仕業かもしれません…

